

令和6年度 周南市友好親善訪問団報告書 (オランダ・エームスデルタ市)



ご挨拶



周南市では、姉妹都市交流事業の一環として、友好親善と相互理解を深めるとともに、国際感覚の豊かな人材を育成することを目的に、青少年等を姉妹都市へ派遣する事業を行っております。

令和6年度は、オランダ・エームスデルタ市へ中学生7名、高校生3名、市職員1名の計11名を派遣しました。平成2年の姉妹都市提携以来、今回で通算15回目、デルフザイル市が合併してエームスデルタ市になってからは初めての訪問となりました。

団員の皆さんは、事前研修会でオランダ・エームスデルタ市について学び、グループ学習や語学学習など、訪問に向けて準備を行い、期待と不安を胸に出発し、現地では、ホストファミリーをはじめ、多くの方々との触れ合いを通して、オランダの歴史や文化、生活様式などを学ぶとともに、周南市の紹介や日本の文化を伝えるなど、積極的に交流を深められました。

この報告書は、団員の皆さんがそれぞれの活動で得た、かけがえのない貴重な体験や感動をありのままに綴ったものです。

団員として参加された皆さんには、エームスデルタ市の新しい友人を大切にしてくださいととも、この度の経験を通して得られた自信や学びを、自らの成長の糧とされ、今後の学校生活や地域活動、さらには将来、国際化社会の中で活躍されることを期待しております。

結びに、本事業の実施にあたり、ご支援とご協力を賜りました学校関係者や保護者の皆さま、エームスデルタ市役所、実際に日々の活動プログラムを計画された姉妹都市交流財団の方々、そして、温かいおもてなしで団員を受け入れていただきましたホストファミリーの皆さまに心から感謝申し上げます。

周南市長 藤井 律子

Netherlands Groningen

オランダ フローニンゲン

エームスデルタ市について

市の概要

エームスデルタ市は、オランダの北部フローニンゲン州の東北部の北海に面し、ドイツ国境近くに位置する都市です。化学工業を主体とする工業地帯や天然の良港を有し、周南市と都市形態がよく似ています。住宅街はレンガ造りの瀟洒な家々が並び、自然を多く残した美しい街です。エームスデルタという名称は、ユネスコ世界遺産「ワッデン海」の一部でもあるエームス川河口に隣接する街の地理的特性に由来しています。

- 人口／約45,000人
- 面積／約364km²
- 言語／オランダ語
- 通貨／ユーロ(EURO)
- 交通／アムステルダム市から車で約3時間

姉妹都市提携までのあゆみ

国際化が進展する中、旧新南陽市では外国の都市との友好関係の必要性を認識し、候補地を探していたところ、地元企業である東ソー株式会社により、オランダの旧デルフザイル市が紹介されました。国際貿易に基本を置く港湾化学工業都市であるという類似した都市形態を背景に、互いの文化、生活様式の相違性の理解を深めることが大切であるとして平成2年5月22日に姉妹都市提携調印団をデルフザイル市に派遣し、調印を行いました。

お互いの市が合併しても交流を継続することとし、周南市誕生後の平成18年7月31日に、また、エームスデルタ市誕生後の令和5年8月1日に再調印しました。



概略日程

月日	現地時間	日本時間	日程
7月28日 (日)	20:35 23:10	14:14 19:10 21:35 24:10	徳山駅発 福岡空港発 台湾桃園国際空港着 台湾桃園国際空港発 (機内泊)
7月29日 (月)	7:40 午前 午後 17:00	14:40	アムステルダム・スキポール空港着 アムステルダム市内視察(国立美術館、運河クルーズ) アムステルダム市発 エームデルタ市着、歓迎会、ホストファミリー面会 (ホームステイ)
7月30日 (火)	終日		ホストファミリープログラム (ホームステイ)
7月31日 (水)	午前 午後		アッピングダム歴史地区散策 エームデルタキャンパス(高校)視察 平和の木引渡式 スポーツプログラム エオリスの風車、ファームサムの教会見学 バーベキュー (ホームステイ)
8月1日 (木)	午前 午後		チュケムにある牧場視察 フローニンゲン市内視察 (ホームステイ)
8月2日 (金)	終日		スキモノコーフ島サイクルツアー (ホームステイ)
8月3日 (土)	夕方		ホストファミリープログラム お別れ会 (ホームステイ)
8月4日 (日)	午前 午後		エームデルタ市出発 ユトレヒト市到着、市内視察(ミッフィーミュージアム) (ホテル泊)
8月5日 (月)	11:00	18:00	ホテル出発 アムステルダム・スキポール空港発 (機内泊)
8月6日 (火)	6:15 14:40 18:05 21:32	7:15 午前 15:40	台湾桃園国際空港着 台北市内視察(龍山寺、国立台湾博物館) 台湾桃園国際空港発 福岡空港着 徳山駅着

令和6年度周南市友好親善訪問団 団員名簿



14 周南市立太華中学校 1年
ページ 麻生 史花 Aso Fumika

16 山口大学教育学部附属光中学校 2年
ページ 内山 沓子 Uchiyama Toko

18 周南市立富田中学校 1年
ページ 清水 愛美 Shimizu Manami

20 晃英館中学校 1年
ページ 土居 かおる子 Doi Kaoruko

22 周南市立福川中学校 1年
ページ 福田 優月 Fukuda Yuzuki

24 周南市立太華中学校 1年
ページ 福本 詩子 Fukumoto Utako

26 周南市立富田中学校 3年
ページ 森前 貴道 Morimae Takayuki

28 AICJ 高等学校 1年
ページ 志水 里帆 Shimizu Riho

30 野田学園高等学校 1年
ページ 松井 初咲 Matsui Usa

32 山口県立下松高等学校 1年
ページ 渡邊 瑠巴 Watanabe Ruruha

34 周南市観光振興課
ページ 大迫 啓志 Osako Hiroshi

(中・高生 五十音順)

友好親善訪問団活動の様子

【オランダ・エームステルタ市 令和6年7月28日～8月6日 10日間】

記：周南市友好親善訪問団 団長 大迫 啓志

7月28日(日)

5年ぶりに再開した友好親善訪問団派遣事業。過去の団員たちは朝早くに出発することが多かったようですが、当時とは飛行機の便も随分と様変わりしており、今回は午後からの出発です。まずは福岡空港から台湾桃園国際空港へ向かいました。経由地の台湾では空港の中だけですが、海外を訪れた実感がわき、はじめはおとなしかった団員たちも少しずつ盛り上がりを見せ始めました。定刻通りの23時10分に台湾を出発した飛行機がオランダに到着するのは現地時間の翌朝。この日は機内泊でした。



福岡空港にて。まだ少し緊張気味です

7月29日(月)

朝7時40分にアムステルダムのスキポール空港に到着しました。エームステルタへの到着は夕方を予定していたので、午前中はアムステルダム市内を視察しました。長時間の移動のあとの活動だったため、団員たちはお疲れだったと思いますが、皆一生懸命ついてきてくれました。国立美術館の見学をした後は運河クルーズ。この日のアムステルダムの最高気温は25度。とても心地よい陽気の中、運河沿いにレンガ造りの建物がひしめき合うように並んでいるアムステルダムならではの美しい街並みに感動し、改めてオランダに来たことを実感できました。



運河から望むアムステルダムの街並み

昼食後、バスで約3時間かけてエームステルタへ到着しました。ベン・ヴィッサー市長をはじめ、姉妹都市交流財団関係者、ホストファミリー等の多くの方々が手を振って温かく出迎えてくれました。到着後はそのまま歓迎会が行われ、訪問団員を代表して松井初咲さんが、英語でしっかりと挨拶してくれました。団員全員が行った英語のプレゼンテーションでは、慣れない英語でのスピーチに苦戦する団員もいましたが、それを優しく見守ってくれるエームステルタの方々が印象的でした。歓迎会終了後はホストファミリーとの対面です。まだまだ緊張している団員に対し、ホストファミリーの温かい笑顔が安心感を与えてくれました。



市役所の議場で開かれた歓迎会

7月30日(火)

この日は終日、それぞれのホストファミリーと過ごしました。出会った翌日すぐにホストファミリーと丸1日を過ごすということで、団員たちにとっては最大の山場だったことでしょう。翌日聞いてみると、ビーチに行った、アザラシを見た、動物園に行った、カヌーに乗った、サイクリングをした等々、各自さまざまな体験をしたようでした。前日までと打って変わっての英語漬けの体験は大変だったとは思いますが、「英語が随分聞き取れるようになった」「ホストファミリーと仲良くなれた」と、団員にとってとても有意義な時間となったようです。

私も現地では団員同様ホームステイをしながら滞在をしました。この日はホストファミリーのニックと、その友人でエームスデルタの副市長でもあるハンスに、エームスデルタ市内をはじめ、隣国ドイツやフローニンゲンなど、朝から晩までたくさんのところに連れて行ってもらいました。事前の情報では「オランダの食事は質素なものが多い」と聞いており、確かに1回の食事の品数が多かったり、毎回のバリエーションが豊富だったりとすることはありませんでしたが、飲食の量がとても多い。この日は1日3回のボリュームたっぷりの食事に加えて、ハーリング（生のニシンを塩漬けにしたもの）やアップルタルトなどのオランダ名物料理もいただきました。また、目的地だけでなく移動中の車内でも1日中、真面目な話からそうでない話まで、たくさんのお話を教えてもらい、おなかいっぱい胸いっぱいの1日でした。

7月31日(水)

2日ぶりに団員全員が顔を合わせましたが、皆、元気そうな様子で集合場所に集まりました。この日は内容盛りだくさんの1日です。アッピングダム地区の散策の後、3つの中等教育レベル（日本だと中学校～高等学校程度に該当）の学校が集まっているキャンパスの視察。夏休み期間中ということもあり、あいにく学生はいませんでした。オランダ国内にあるライデン大学からエームスデルタ市に、広島原爆樹木2世のイチョウの木が寄贈されるということで、この日にあわせてキャンパスで引渡式を開催していただき、我々も参加しました。式では志水里帆さんが英語でスピーチしてくれました。午後からはスポーツプログラム、ファームサムという地区の教会や、永源山公園にある「ゆめ風車」のモデルになったエオリスの風車を見学した後、バーベキューを楽しみながら、交流を深めました。ここで初めて自分のホストファミリー以外の人と話したという団員もあり、少しずつ輪が広がってきていることを嬉しく感じながら、前日の英語漬けの1日の反動からか、団員同士もこの日を境に一気に仲が深まったように感じました。



特に表示のない国境：舗装されていない道（右）はオランダ、舗装されている道（左）はドイツだそう



ハーリングは尾を指でつまんで持ち上げて、上を向いて食べるのが一般的な食べ方



アッピングダムの名所
ハンギングキッチン



平和の木の引き渡し



スポーツプログラム：旗を奪い合っています



ゆめ風車のモデルとなっている
風車「エオリス」



お肉が焼けるのを待っています

8月1日(木)

午前中は、チュケムにあるブランクさんの牧場や農場を訪問しました。こちらの牧場では自動搾乳システムを導入しており、家族経営でも無理なく100頭以上の牛の搾乳ができるそうです。また、バイオガスプラントの稼働・運営等もしており、私が想像していた「牧場」よりも非常に近代的な場所でした。また、この頃からようやく団員とホストファミリーの子どもたち同士で遊ぶ姿を見られるようになり、ほっと一安心。

午後からは全員で電車に乗り、エームステルタの属するフローニンゲン州最大の都市フローニンゲンを訪れました。フローニンゲン市内では基本的には自由行動で、各自ホストファミリーとお土産を買ったり、おやつを食べたりと楽しい時間を過ごしていました。夕食は、オランダ名物「パンネクック」と呼ばれる、クレープのような薄い生地の上に自分好みのトッピングをして食べる料理をいただきました。甘いものばかりではなく、ベーコンが乗っているようなおかず系のものであり、出される量もすごいため、皆お腹いっぱいになりました。



見慣れない大勢の人々に
興味津々の牛



電車に乗ってフローニンゲンへ



船上レストランでいただく
パンネクック



牧場の見学にも関わらず、一番盛り上がっていたのは庭に設置されていたトランポリン

8月2日(金)

この日は国内最北に位置し、オランダ最初の国立公園であるスキモニコーフという島でサイクルツアーでした。長さ約16km、幅約4kmで人口は1,000人弱の小さな島ですが、年間30万人近い人が観光で訪れているそう。別荘地としても人気で、バカンス期間には特に多くの人々が島を訪れるそうです。我々が乗ったフェリーもかなり大きなものでしたが、満員に近いくらい混雑していました。

島内では自転車を借りて、サイクリングを楽しみました。島内には居住者もおり、タクシーやトラックなどの車も走っていますが、観光客の車の乗り入れは制限されているため、船に乗ってきた人の多くが自転車を借りていました。そのため、自転車の貸出待ちは長蛇の列となっていました。貸し出す側も慣れていないようで、思ったよりスムーズに自転車を受け取ることができました。日本の自転車とは少し形状の違う自転車で、予約していたことも用でもうまく乗れず、より小さく乗りやすい自転車に変えてもらう団員もいて、少々不安なスタートでしたが、最終的に誰も怪我することもなく、無事に終わることができました。後で聞いた話ですが、オランダではサドルにまたがったとき地面に足がつかないのが普通だそうです。乗り降りにコツがいりますが、慣れるとサドルが高い方が楽にペダルをこぐことができるとのこと。日本で足がつく高さの自転車にしか乗ったことのない団員からすると、こども用でもサイズが合わないと感じるのも不思議ではありません。こんなところでも文化の違いを感じました。



満員の船に乗って島に渡ります



自転車道も充実しており、快適なサイクリングができました

8月3日(土)

この日は夕方まで各ホストファミリーと自由に過ごしました。次の日の朝にはエームデルタを出発するため、ホストファミリーと過ごす実質最後の1日でしたが、皆楽しめていたようで良かったです。

夕方からは郊外にあるレストランでお別れ会を開催してもらいました。おいしい料理をいただきながら、終始和やかな雰囲気、楽しい時間を過ごせました。麻生史花さんの司会で始まった出し物の最後に各ホストファミリーへ手紙を渡したときには、涙する方もおり、短い期間ではありましたが、濃厚な時間を過ごせたのだと感じました。お別れ会の最後は渡邊瑠巴さんのあいさつで締めくくられ、皆ホストファミリーと過ごす最後の夜へと向かっていきました。



オランダの伝統的な家庭料理「スタンポット」
本来は冬に食べられる料理です



楽しそうに遊んでいます



お別れ会終了後の会場。まだ少し明るさが残っていますが現地時間21時過ぎ

8月4日(日)

ついにホストファミリーとお別れの日です。ホストファミリーをはじめとして、これまで関わってくれた方から初めましての方までたくさんの方が見送りに来てくれました。別れは寂しいもので、なかなかバスに乗り込むことができませんでしたが、最後は笑顔で再会を約束し、エームスデルタを出発しました。

エームスデルタを出発後はユトレヒトへと向かい、ミッフィーミュージアムの見学や、ショッピングをして楽しみました。この日の夜は今回の訪問で唯一のホテル泊でした。オランダ最後の夜、そして仲良くなった訪問団員たちだけで過ごせる最後の自由な時間ということで、皆遅くまで楽しんでいました。



バスが見えなくなるくらいまで手を振って見送ってくれました



ドム塔をバックに集合写真
(塔の中には入っていません)



ホテルでの夕食

8月5日(月)

ホテルの出発は7時15分を予定していましたが、朝食会場が開くのはなんと7時。先にチェックアウトして、バスに荷物を積み込んだ後、思いのほか品数が多く美味しそうな朝食バイキングを横目に、必要最低限の量をかきこんで大急ぎで出発しました。夜遅くまで起きていた割に皆しっかり時間通り行動できていることに驚きました。

定刻通り11時にオランダを飛び立った飛行機は、行きでも立ち寄った台湾へと向かいます。台湾への到着は現地時間の翌朝。この日は機内泊です。



朝食バイキング
ゆっくり味わいたかった・・・



空港に向かうバスの中ではほとんどの団員が寝ており、とても静かな移動に



オランダとの別れ
スキポール空港へ

8月6日(火)

早朝6時15分に台湾に到着しました。台湾から日本へ向かう飛行機の出発は14時40分と、待ち時間が長いため、一度空港の外に出て台北市内の観光です。台北では龍山寺や国立台湾博物館の見学をしました。また朝早い時間の観光でしたが、とにかく暑い。これまでの疲れと、久しぶりに感じる蒸し暑さで体調を崩す団員がいるのではないかと心配になりましたが、皆最後まで元気に過ごすことができました。

昼頃に再び台湾桃園国際空港に戻り、出国手続きを済ませていざ日本へ。18時5分、福岡空港に到着し、その後最後の力を振り絞って博多駅へと移動しました。飛行機の遅延等の可能性も考慮して少し遅めの新幹線を予約していましたが、今回の航程では、大きな遅延や手荷物紛失などのトラブルは全くなく、とてもスムーズなものだったので、博多駅にて用意されていたお弁当を食べながら新幹線を待ちました。徳山駅への到着は21時32分。団員たちをお迎えに来ていたご家族のもとに送り届け、10日間の全日程が終了しました。

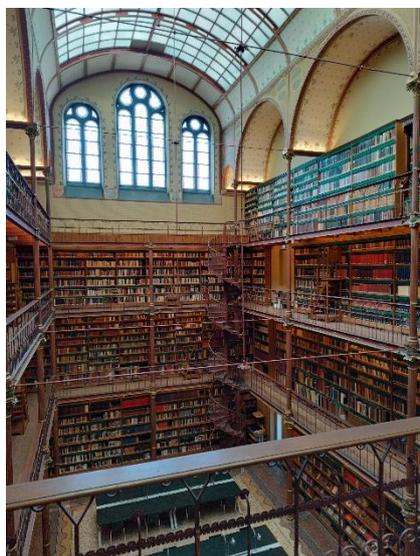
この10日間の出来事すべてが、団員たちにとって、人生におけるかけがえのない経験となったことは間違いありません。今回の訪問で国際交流に対する意識をより深められた団員たちが将来、国際化社会の中で、グローバルに活躍してくれることを願っています。



龍山寺にて集合写真

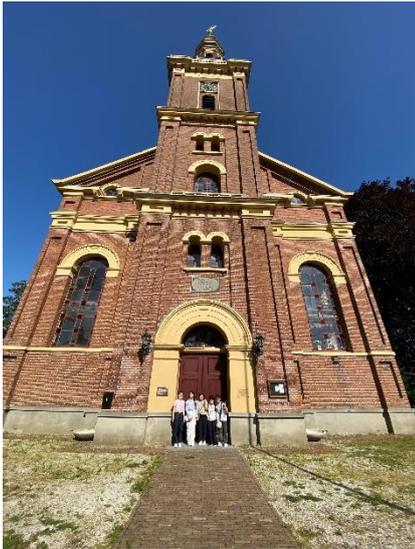


久しぶりに味わうアジア料理（飲茶）



Amsterdam





*Eemsdelta
etc.*





Utrecht



Taipei



麻生 史花

Aso Fumika

(ホストファミリー Meijer 家)

オランダでは、初めての体験をたくさんすることができました。また、食習慣や、生活習慣の違いなど驚くことがたくさんありました。トイレが有料だということ、みんなとても背が高いことなどにも驚きましたが、特に驚いた事が二つあります。

一つ目は、食文化の違いです。夕食の場合、日本人は約1時間かけて夕食をつくとされていますが、オランダでは時間をかけて美味しいものを食べることで、家族で過ごす時間を大切にしています。そのため調理時間もかなり短く、料理は質素なものが多いです。夕食の時は、ホストファミリーが全員集まるので、その日あったことを話したり、オランダのことで知りたいことを質問したりできて、とても楽しい時間でした。主食はジャガイモを使った料理で、シンプルですが、とても美味しかったです。

二つ目は、ペットボトルのデポジットです。デポジットとは日本語でいう「預かり金」のことで、ペットボトル容器を使った商品にあらかじめ容器代を上乗せし、使い終わって返却した際に容器代が戻ってくるという制度のことで、ペットボトルのデポジット制はオランダの他に、ドイツやオーストリア、スイスなどの世界20カ国以上で導入されています。しかし、日本ではペットボトルのデポジット制はまだ導入されていません。私は、デポジット制はとても良い制度だと思います。日本でもこの制度を導入すれば、ペットボトルのリサイクル率が上がり、街に落ちているゴミは減るのではないかと思います。



ホストファミリーと3人で撮っている写真
「動物園で亀のこうらと写真を撮りました。」



ペットボトルの写真
「ペットボトルが矢印で囲まれているものがデポジットのマークです。」

オランダに行き、ホームステイをしたことで、たくさんのお得なことができたが、なかでも英語を学ぶ理由を見つけられたことがとてもよかった。オランダに行く前、私は英語が好きでしたが、なぜ英語を学ぶのかはわかりませんでした。スマートフォンで翻訳アプリが使える時代になり、英語はもう話せなくても良いのではないかと考えていたからです。

ホームステイが始まり、私は、英語に自信がなかったため、始めは翻訳アプリを使ってホストファミリーと会話をしていました。でも、しばらくするとホストファミリーと仲良くなり、徐々に簡単なことは翻訳アプリを使わずに自分の言葉で伝えるようになりました。自分の言葉で伝える事はうまく伝わらないこともありましたが、翻訳アプリを使って会話するよりも楽しかったです。翻訳アプリを使わずに会話をしたことで私は自分なりの英語を学ぶ理由を見つけることができました。

私が英語を学ぶ理由は会話を楽しみたいからです。会話をするだけなら翻訳アプリで簡単にできますが、自分の言葉で会話しているときの楽しさは味わえないと思います。

参加させてくれた両親と、関係者の方々に感謝し、この経験を今後の人生に活かしていきたいです。また、ホストファミリーや訪問団の仲間との絆や思い出を大切にしていきたいと思っています。



ジェットコースターの写真

「動物園で乗りました。動物園とは思えないスリルで面白かったです。」



鞆の写真

「1942年3月2日水曜日、デルフザイルのほぼ全てのユダヤ人住民がドイツ占領者の強制を受けてアムステルダムに向けてこの駅を出ました。ホロコーストの恐怖から生き残った人はほとんどいません。50年後の1992年、75年後の2017年にこの場所で式典を開催し、この石碑を設置しました。ここで立ち止まって思い出してください。」と書いてあります。エームデルタの駅にありました。



図書館の写真

「アムステルダムの美術館にあった図書館の写真です。ハリーポッターの世界みたいでした。」

内山 杏子

Uchiyama Toko

(ホストファミリー Spijk 家)

周南市友好親善訪問団に参加して日本ではできないような貴重な体験をすることができました。

私は、ホストファミリーと会う前までは楽しみな気持ちや仲良くなれるかという不安、そして緊張で頭がいっぱいでした。しかし、ホストファミリーの方々が温かく迎え入れてくださったお陰ですぐに不安や緊張はなくなりました。

ホストファミリーの家族構成は、お父さん、お母さん、お兄ちゃん、同い年の女の子、猫2匹、鶏17羽、たくさんの魚でした。同い年の女の子Nikitaと、お兄ちゃんKelvinは分かりやすい英語で説明してくれたり、オランダ語を教えてくれたり、私も彼女たちに日本語を教えました。みんなでオランダ版のじゃんけんをしたり、日本のゲーム「ユビスマ」や卓球等をして遊びました。私の言葉がつまった時に、彼女たちが翻訳アプリ等を使って私が伝えたいことを理解しようとしてくれたことが心から嬉しかったです。

オランダで体験したことの中で一番印象に残っているのは、Nikitaと一緒に運河でカヌーに乗ったことです。街中にたくさんの運河があることや、運河でカヌーをするということに驚きました。Nikitaと「left、right」と息を合わせてカヌーを漕ぎ、塀にぶつかってしまうこともありましたが、とても楽しかったです。さらに運河で泳いでいる人がいたことにもビックリしました。カヌーを漕いでいると、とても不思議なつくりの家をたくさん見つけました。中には家からキッチンが飛び出している家もありました。その理由は戦争にあるようですが、詳しいことはよく分からなかったなので、改めて調べてみたいと思っています。



ホストファミリーと初めて会ったときの写真。

少し緊張…



みんなで日本のゲーム「ユビスマ」をしています。

もう一つ印象に残っていることがあります。それは草刈機を使ってホストファミリーの庭の草を刈ったことです。私は初めて草刈機に乗りました。思った以上に草刈機は大きく、操縦が難しかったので、あまりうまく操縦できませんでしたが、とても貴重な体験ができました。

私は、将来どんな職業に就くのかまだ決まっていませんが、今回の周南市友好親善訪問団で学んだことを必ず将来に生かしたいと思います。そして、英語とオランダ語をもっと勉強して、いつかホストファミリーに再会する時は、是非オランダ語で会話したいです。

最後に、様々な文化に触れ、たくさんの経験をさせてくださった周南市の職員の方々とホストファミリー、訪問団の仲間、そして私の家族に心から感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。



草刈機の大きさ、音の大きさに驚きました。



Nikita、Kelvin とピアノの発表会をしました。



エオリスの風車の前で撮った写真です。

清水 愛美

Shimizu Manami

(ホストファミリー Stegmeijer 家)

私は、ホストファミリーと英語で会話ができるか不安でした。私は英語が得意ではありません。オランダの人とコミュニケーションをとれるのかドキドキしながら出発したのを覚えています。

不安を抱えたままの私をホストファミリーのリチャードたちは温かく迎えてくれました。不安は少し薄まりました。でも、英語が不得意なことに変わりはないのです。翌日は、訪問団のみんなと離れて丸一日ホストファミリーと過ごす日でした。その日は、エームスデルタの北方にあるビーチに連れて行ってもらいました。リチャードに「向こう岸はドイツだ」と教えてもらいました。干潮時には歩いてドイツに行けるそうです。歩いて違う国に行けるなんて驚きました。オランダは平地で川が多いため、川が氾濫しやすいそうです。だからビーチの後ろには堤防が作られていました。そのきれいな白い砂浜で、6歳の双子のダニクとタイスが私の手を引っ張って一緒に砂浜を走り回ったことは、とてもいい思い出です。

この1日を振り返ってみて、私はいつの間にか言葉の壁がなくなっていることに気が付きました。それはなぜだろうと考えました。ダニクとタイスは普段オランダ語で話していますが、私には簡単な英語やジェスチャーを交えてくれました。また、リチャードがオランダについて説明してくれる時も、私の表情を見て分かっていないようだと思ったら、言い換えてくれていました。そのおかげで、あんなに不安だったのにいつの間にか家族のみんなと笑顔で過ごせるようになったんだと思いました。コミュニケーションは工夫次第だと思いました。

次の日からはプログラムに沿って交流を深めていきました。周南市にあるゆめ風車の元になった風車を見たり、各訪問団員のホストファミリーも集まってバーベキューをしたりして、とても楽



ホストファミリーは私を温かく迎えてくれました



ダニクとタイスと川で遊んだときの写真

しかったです。特に、スキモニコーフ島でリチャードたちと一緒にサイクリングをしたことが心に残っています。島内には、第二次世界大戦時に作られたという見張り台がありました。悲しい歴史が今でも残る土地でしたが、そこで見た景色はとてもきれいで、これからも平和で美しい場所であってほしいと思いました。

あっという間に最後の日になりました。リチャードたちに感謝の気持ちを込めた手紙を渡しました。とても短く感じた7日間でした。



スキモニコーフ島の見張り台から見た景色

私は今回の訪問で、オランダの気候や国の特色などはもちろん、訪問団に参加したいと思ったきっかけでもあった、コミュニケーションについて学ぶことができました。これまで私は、コミュニケーションをとる上で、言葉ばかりに目を向けていましたが、言葉以外にも心を通じやすくするものがあることが分かりました。英語が得意ではなかったことで逆に言葉で全てを伝えようとしなくても、表情やジェスチャーでも伝わると気付いたことは大発見でした。また、英語が間違っているかもと必死になるよりも、伝えたい、理解し合いたいという気持ちをもつことや、相手の顔を見て、相手がどう思っているかを感じながら話すことが大事だと思いました。通じ合った時のうれしさを忘れないようにしたいと思います。

「言葉よりも心が大事」とはよく聞くけれど、自分の体験を通して本当に大切だと実感できたことが私の一番の学びです。それが学べたのも、すてきなホストファミリーや仲間たちに出会えたからです。そして、こうした一生心に残る体験の機会を与えてもらったからです。本当にありがとうございました。

これからも、理解し合いたいという心を大切に、自分の世界を広げるチャレンジをしていきたいと思っています。



家で遊んでいるときの写真



スーパーマーケットで買い物したときの写真

土居 かおる子

Doi Kaoruko

(ホストファミリー
de Boer / Janssen 家)

この夏、周南市友好親善訪問団で、私はたくさんの貴重な経験をする事ができました。オランダでは、毎日が驚きの連続で、たくさんのことを経験し、学びました。

私がオランダに行って一番強く感じたのは、人の温かさです。初めてホストファミリーと会ったときは、考えていたあいさつを忘れるくらい緊張しましたが、たどたどしい英語の私にヤンセン家の人は、親切に接してくれました。

近所の人や、お店の人もフレンドリーにあいさつをしていて、人と人との間に壁がないな、と感じました。

気候も、湿度が低くて朝は涼しく快適でした。夜の9時を過ぎても外が明るかったことも驚きの一つでした。夏のヨーロッパは日照時間が長くサマータイムが実施されていました。「日本から遠い所に来たんだなあ」と改めて実感しました。ホームステイ先の家のそばでは、馬が数匹いて一面に牧草地帯が広がっている自然豊かな環境でした。

また、街の公園には給水所があり、飲み水を給水しました。有料のトイレは、0.8ユーロ払って入りました。日本では、お金を払って水を買ひ、コンビニでは無料でトイレを貸してくれるので、世界には自分の知らないことがたくさんあると気づきました。



オランダの街の屋台でホストファミリーと



帰宅後自宅の夕食のおいしいスープ

私がホストファミリーと過ごしたことで思い出に残っていることは動物園に連れて行ってもらったことです。私は、エームステルタでの現地調査で、どのような野生動物が生息するのかを調べることであったので現地の動物を見ることができ、心強かったです。

一番印象に残っていることはインコが手に止まったことです。動物園の、鳥が自由に飛び回っているコーナーに行き、ステイ先の方に鳥のエサを買ってもらいました。それを持ち、カラフルな1羽のインコにさし出してみると、手に止まり、エサを食べてくれました。インコがエサを食べる際に動くので、少しすぐったかったです。解放的な動物園は、動物達がのびのびとしていました。そしてキリンの帽子などお土産もたくさん買ってもらいました。

オランダ訪問の前は、10日間は長いと思っていましたが、毎日が充実していてあっという間に過ぎていきました。家族のように接してくれたホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。オランダでの、貴重な経験をこれからの生活にも活かしていきたいです。



飼い猫のかわいいメスのムーシェ 自由ネコ



居心地の良いリビング



夏のオランダ夜の20時半で外は明るい現実

福田 優月

Fukuda Yuzuki

(ホストファミリー Stol 家)

私は友好親善団に参加し、とてもたのしかったです。初めての海外で、初めてのホームステイだったので緊張していましたが、ホストファミリーの方々がとても温かく迎えてくれました。英語が苦手でしたがこのホームステイを通して、わかるようになった英語などもあります。

ホームステイ中いろんなところに連れて行ってもらい、いろいろな経験ができました。特に印象に残っていることが4つあります。

1つ目は、ホストファミリーデーです。野生のアザラシを見にいきました。野生のアザラシがたくさん日光浴をしていました。野生のアザラシは初めて見ました。それからソフトクリームを食べて、ボートに乗って湖を1周したあと、ホストファミリーのお姉さんが働いている牧場へ行きました。牧場では、機械で搾乳をしているところを見学したり、バギーに乗せてもらったりしました。牧場には犬がいて、私の家族が飼っている犬に似ていて、とてもかわいかったです。いいお天気でどれも楽しい経験になりました。

2つ目は、団員みんなで行った牧場です。トランポリンがありいろんなホストファミリーと一緒に楽しみました。トランポリンはとても大きかったです。トランポリンの上で前転などもしました。牧場の子牛にミルクをあげたりできました。とても大きい車に乗りました。その牧場には、餌を1年分ためて置ける施設があり、驚きました。



最後の日にとったホストファミリーとの写真です。
お別れはすごく寂しかったです。



ホストファミリーのお姉さんの牧場に行きました。
牛が大きくて迫力がありました。

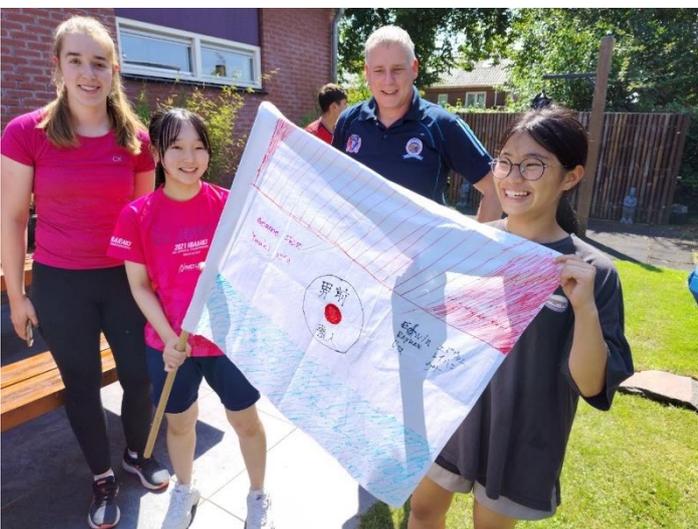
3つ目は、ホストファミリーと一緒にした折り紙です。鶴を折ったけど、私とホストマザーは失敗してしまいましたがお姉さんは、折り紙がとても上手でした。その後うさぎを折ったり、オランダの花のチューリップを折ったりしました。ウサギやチューリップは上手に折ることができました。オランダのカルテットというカードゲームを覚えてもらってしました。ホストマザーに教えてもらいながらでしたが、カードゲームは勝てました。

4つ目は、スポーツプログラムで行ったゲームです。旗にデザインをしてチーム名を男前強人にしましたが、結果は下位のほうでした。でも、空手の道具をつかったリレーや、オランダの伝統的な言葉を発音よく言うゲーム、特に旗取りはすべてのチームが真剣勝負でとても楽しかったです。

このホームステイでは日本とは違う文化にふれ、日本ではできないような体験や、日本では見ることのできないものを見学したり、充実した時間を過ごすことができました。



牧場のバギーの後ろに乗せてもらって、敷地内を走りました。



旗を作りました。
名前は男前強人です。



カルテットというカードゲームをしました。
全勝でした。

福本 詩子

Fukumoto Utako

(ホストファミリー te Braake 家)

エームスデルタ市の人達はとても明るくて優しくかったです。みんな私が英語を理解できなかつたらジェスチャーで頑張って伝えようとしてくれたことが心に残っています。車で移動している時の景色もびっくりする景色が多く馬に乗って散歩をしている人がいたり、羊が見えたりと珍しい光景が多かったです。山がなくてずーっと奥の方まで見えることがとても不思議な感覚でした。ホストファミリーデーにアザラシを見に行った時は、オランダでアザラシが見られるんだとびっくりしました。見てみるとアザラシが砂浜にたくさん寝そべっていてそれにもびっくりしました。

ホストファザーの Maurits は一緒にお出かけはしなかったけれど一緒に卓球をしたり、リビングでオリンピックを見たりしました。卓球で自分が練習していた技で点が取れて嬉しかったです。

ホストマザーの Brechje はたくさん話しかけてくれたり朝ごはんに私が食べられるものを用意してくれたりとても優しくかったです。ホストマザーの英語はとても聞き取りやすかったです。

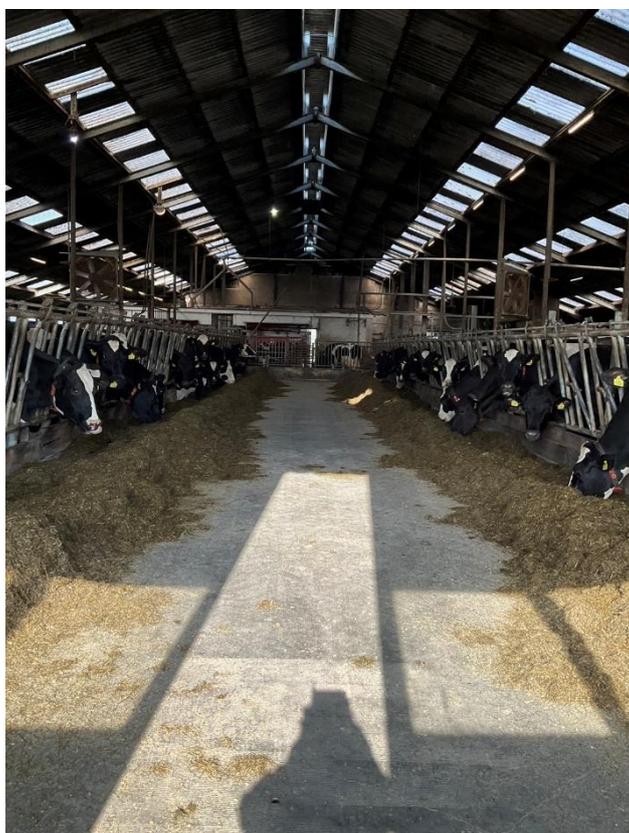
Pleun にはホームステイ中に会うことができませんでした。

Ties は牧場をお父さんとしていて毎朝牛の散歩をしたり、忙しそうでした。ホストファミリーの家に行った最初の日に Ties がカレーを作ってくれました。とても美味しかったです。

Emmeke はスポーツのプログラムがある時に来てくれて一緒にプログラムをしました。とても元気で明るくて、あまり一緒にはいられなかったけど



ホストファミリーとアザラシを見に行きました。
アザラシがたくさんいて、びっくりしました。



ホストファミリーが経営している牧場です。
たくさんの牛がいました。

一緒にいるととても楽しかったです。

An はずっとそばにいてくれてとても心強かったです。私のわからない英単語があれば翻訳で教えてくださいました。An は色々なところに連れていってくれました。自転車で買い物に行ったことが1番の思い出です。

Sjuul は私と同じ年で折り紙を一緒に折ったり鶏のえさ変えに行ったりしました。Sjuul とまたいつか会いたいです。私がお土産で持っていった紙風船で遊びました。たくさんラリーをしてとても疲れたけれど仲良くなることができました。



自転車で買い物に行きました。
漕ぎながら日本語を教えました。

この訪問団に参加して学んだことは、コミュニケーションの難しさと大切さです。英語が話せなくても伝えたいという気持ちが大切だということ学びました。オランダでたくさんの友達ができる友達を大切にしていきたいです。Sjuul が周南市に行きたいと言っていたので今からもっと英語を勉強して次に会った時は英語でたくさん会話できるようにしたいです。訪問団に参加して成長することができました。参加することができて良かったです。



Sjuul と一緒に折り紙をしました。
とても苦戦していました。



クライミングパークに行きました。
とても怖かったです。

森前 貴道

Morimae Takayuki

(ホストファミリー Oosterveld 家)

私は今回の友好親善訪問団に参加し、オランダのエームスデルタ市に行きました。

最初に私がホームステイで体験したことは、屋外で晩ごはんを食べることです。料理はトマトスープとパンとポテトチップスで、野菜は出てきませんでした。私はトマトスープをお皿1枚分飲んだところ、おなかがいっぱいになり、ポテトチップスを2、3枚食べたなら、もう食べられなくなりました。

次に私が体験したことは、小型船の操縦と湖で泳ぐことです。最初は湖がにごっていて泳ぐことができませんでした。しかし、ホストファミリーの男の子に誘われて一緒に飛び込むと、日本と同じで、泳いだ後皮膚がかゆくなったりしませんでした。一緒に泳いだことで、距離が近くなった気がしました。その後、川で小型船を操縦したときは、岸にぶつかるのではないかと心配になりましたが、思ったよりも操縦が簡単で楽しくしました。

その次に私が体験したことは、商店街の散歩です。オランダの商店街は見た目がユニバーサルスタジオジャパンの中みたいで、とても楽しめました。そして私はホストファミリーにアイスクリームを買ってもらいました。味はスマーフとヨーグルトラズベリーで、初めて食べる味だったので、少し緊張しました。スマーフは日本には無い味で、ヨーグルトラズベリーはその名前のおりの味でした。食べ終わった後、私はオランダの有名な場所などを巡りました。その中には海からの水の侵入を防ぐととても分厚い壁があり、私は最初に見たとき圧倒されました。



ホストファミリーとの写真。初めての外国で初めてホストファミリーと面会したので緊張しました。



ホストファミリーとの食事の様子。トマトスープ、ポテトチップス、パンが出てきました。オランダの家庭では野菜が出てこなかったため、驚きました。

そして、私が一番オランダで感動したことは、教会や風車がたくさんあることです。オランダの教会はとても大きく、最初に私が教会をみたとき、お城と見間違えました。そして、風車はすごく上まで登ることができ、私はそこで初めて風車の内部を見ることができました。ホストマザーから聞いた話によると、昔は風車を回して小麦をひいて、そこで出る小麦粉を使ってパンを作っていたらしいです。

私はオランダに来て、印象が変わったことが二つあります。一つ目は山がないことです。私はオランダに来た時、山がなく、遠くまで景色を見ることができ、楽しかったです。二つ目は、現地の人々は英語がよく話せることです。私はオランダに行く前は、オランダの人々は英語があまり話せないだろうと思っていました。ですが、オランダに行くと、オランダの人々はすごく英語を話すのが上手で、私は思わず感動してしまいました。

私はこの事業を通し、オランダの良さをたくさん知り、同時に他の国への好奇心が芽生えました。そしてオランダの人々とのコミュニケーションを通して、自分の語学力やコミュニケーション力が上がったと実感しました。私は、またオランダに行ってみたいなと思いました。



湖と一緒にサーフボードで遊んだ写真。
楽しすぎて他の写真を撮るのを忘れていました。



オランダの街並みの写真。
川と家がすぐ近くにあるのでとても綺麗な街並みでした。



川を小型船でクルーズした時の写真。
初めて小型船に乗ると共に初めて操縦したので、
すごく緊張しました。

志水 里帆

Shimizu Riho

(ホストファミリー van Es 家)

今回の訪問は、私に新しい出会いやたくさんの驚きをもたらしてくれました。一番大きな出会いはホストファミリーです。ホストシスターのデニスとは昨年私の家にホームステイしてくれた子で、1年ぶりの再会ができてとても嬉しかったです。彼女とはオランダでの1週間を通してより仲が深まりました。ホストファミリーには、ファザーとシンシアとステイフというシスターがいましたが、みんな陽気で面白くて一緒にいるのが心地よかったです。

オランダに来て驚いたのは、辺りが全て平地であったこと、そして牛や馬、羊などが至るところで放牧されていたことです。また、アムステルダムに行った際は、細長いオシャレな建物がどこまでも繋がっていて、本当に夢の国にいるような感覚になりました。日本では味わえない雰囲気や気分を満喫することができました。

ホストファミリーと出会った次の日に、湖に行ってカヌーをしました。予想以上に距離が長くて、一緒にのボートに乗ったデニスと私はくたくたでしたが、2人で励まし合ってなんとかゴールできました。今となってはデニスと協力して困難を乗り越えた最高の思い出です。そして、ファミリーとより距離を詰めることができ、日本では味わえない貴重な経験でもありました。

昨年は、私の家にホームステイしてくれたデニスと、共通の趣味であるダンスを来来亭の駐車場で踊ったのですが、今年はオランダの夕日がきれいな場所で同じ曲のダンスを再び踊りました。ダンスを踊っている間は笑みがこぼれてしまうくらい幸せな時間でした。



ホストファミリーと出会った直後の様子です。緊張マックスでしたが、優しく声をかけてくれたので安心しました。

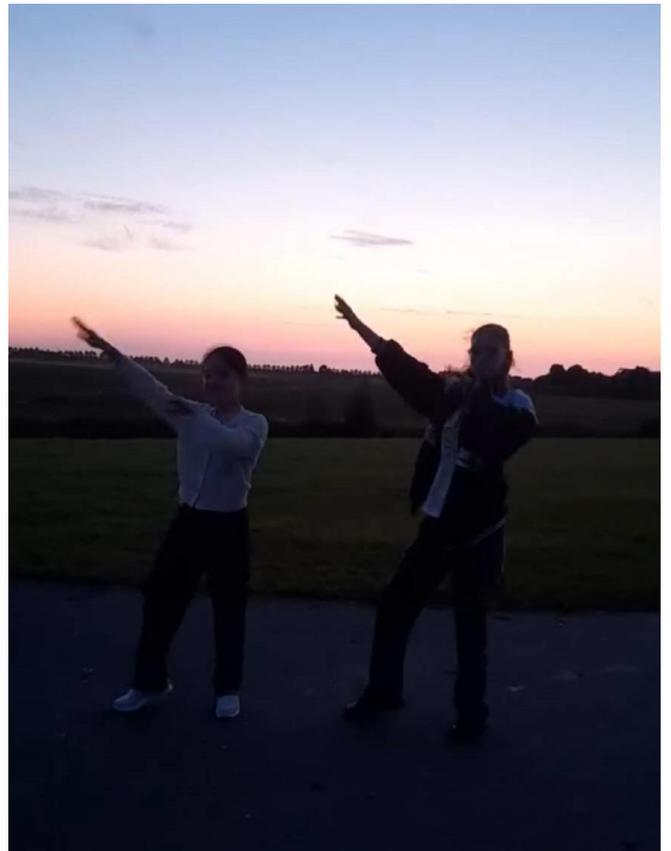


エームステルタはどこまでも草原が広がっていて、見晴らしの良さに感動しました。

また、ホストファミリーと折り紙を一緒に作りました。鶴と手裏剣を作ったのですが、シンシアはとても上手に折れているのに対して、デニスはやれやれになってしまっていて、折り紙には性格がはっきりと現れるのだとみんなで大笑いしました。ホストファミリー全員が、折り紙の魅力にはまってとても楽しんでくれたので、誇らしい気持ちになりました。

このように、素敵なホストファミリーに出会い、オランダでしか味わえない体験をしたり、日本の伝統的な遊びをしたり、様々な思い出を作ることができました。最後の別れのときは寂しい気持ちでいっぱいでしたが、「出会いがあれば別れもある。だけど、また出会いがあるから大丈夫だよ。」とファザーが最後に言ってくれたので、気持ちが楽になりました。

今回の訪問は私の人生にとって貴重な経験、そして学びと成長にもなり、私の人生に大きな影響をもたらしてくれました。これからも、一つ一つの出会いを大切に、新しいことにも勇気を出して挑戦し、色々なことに目を向けることで視野を広げていきたいです。



大好きな k-pop のダンスをホストシスターと一緒に踊りました。ここを機にさらに仲が深まりました。



ホストファミリーと折り紙を折りました。
みんな楽しそうに折り紙を折ってくれました。



海岸に散歩しに行った様子です。
ホストシスターたちと貝殻集めをしたりしました。

松井 初咲

Matsui Usa

(ホストファミリー van Dijken 家)

オランダに到着してまず驚いたことは、街並みがとても美しく、整然とし、広々としていたことです。周南市と違いすぐに山がないため、開けていて本当に広いと感じました。

特に印象に残ったのは、道路がレンガでできている場所があり、伝統的な雰囲気を感じることができたことです。街の中には、歴史的な建物や運河も多く、風情ある景観が広がっていました。

滞在中にはエームスデルタの人々の生活スタイルや、街の美しい景観から、多くのことを学びました。

風力発電や自転車の普及など、持続可能な環境づくりに力を入れていることも知りました。

牧場へ行った際にはオランダの環境への配慮を目の当たりにし、また、ホストファザーの勤務先にはパトカー以外にたくさんの自転車がありました。私たち日本人ももっと環境について学ばなくてはならないと強く感じました。

訪問中に地域の高校でおこなわれた植樹式では、参加者全員にとって広島原爆の歴史を理解し、平和への思いを新たにする貴重な機会となりました。今後も、この木が育ち続け、平和のシンボルとしての役割を果たすことを期待しています。今回のことで国際的な友情の大切さを実感しました。このような交流が将来の国際関係の強化に役立つのではないかと思います。

この経験を活かし、私の通っている高校の留学生と協力して、国際交流イベントや異文化理解の授業を企画し、クラスメートや学校全体に異文化交流の重要性を伝えたいと考えています。具体的には、エームスデルタ市で学んだことを共有するプレゼンテーションや、異文化理解を深めるグループ学習を行いたいです。



ホストファミリーとの1枚
みんなとてもやさしかったです。



道路がレンガでできている街並み
この写真からも自転車の多さがわかります。

私を受け入れてくれたホストファミリーはお父さんが警察官、お母さんがインドネシア人、そして私より年上のお兄さんが2人とお姉さんが1人でした。みなさんとても親切で温かく迎えてくださりました。一緒に食事をしたり、出かけたり、たくさんの時間を一緒に過ごしました。

日本から持って行ったけん玉をしたりもしました。またオランダ語を教えていただいたり今の自分の気持ちを伝えることができるようになったり、逆にホストファミリーに日本語を教えるなど、言語交流を通じて親密さが増したと思います。

私の帰国に合わせて、ホストファミリーの方たちもホストマザーの故郷であるインドネシアへ里帰りすることのことで、スキポール空港で最後にもう一度会えたことは本当に嬉しく、忘れることのできない思い出となりました。

今回エームスデルタ市への友好親善訪問団に参加したことは、私にとって貴重な経験であり、たくさんのお話を学ぶことができました。この経験を学校生活や地域社会で積極的に活用し、異文化理解を深める活動を通じて、国際的な視野を広げ、持続可能な社会を築くために貢献していきたいと考えています。



警察官が乗るための自転車



銀杏の木の植樹式の様子

銀杏の木は「生命力と繁栄」の象徴とされています。



スキポール空港で最後のお別れ

この時はホストファミリーのお姉さんアイシャも一緒に。とてもキレイなお姉さんでした。

渡邊 瑠巴

Watanabe Ruruha

(ホストファミリー Kamminga 家)

私がオランダで感じたことは2つあります。

1つ目は景色がとても綺麗なことです。住宅街はレンガ造りで庭に花や木が植えられている絵本に出てきそうな雰囲気の家が並んでいてとても綺麗でした。基本的に建物はレンガでできているらしく、街を散策している時に、昔流行っていたレンガの積み立て方で建てられているものがあった、レンガの積み方はどれも一緒だと思っていた私にとっては驚きで、街を見ることがより楽しくなりました。4日目のサイクリングをした時はのどかな景色が広がっていて、とても気持ち良かったです。また、驚いたこともあります。それは夜9時を回っても空がとても明るいことです。9時を過ぎているのにお昼のような明るさで2日目くらいまで寝る時に違和感がありました。

2つ目は現地の人がとてもフレンドリーなことです。初めて会ったばかりなのに沢山話しかけてくれました。ホストファミリーも初日不安だった私を優しく迎えてくれてホストファザーが面白いことをしてくれて緊張が解けました。

私のホストファミリーはお父さんとお母さん、サンネとそのお兄ちゃん2人の5人家族で、お兄ちゃん2人は成人していて別に住んでいましたが、1日だけ一緒に過ごしました。ペットは犬のビンゴと猫のムース、そしてインコが2羽いました。サンネは19歳で少し年上ですが、一緒に自転車に乗ったり、犬の散歩に行ったりとても仲良くなれました。お兄ちゃんは1人日本が好きながいて日本の文房具と井上尚弥選手の大ファンで、井上選手のことを私に熱く語っていました。ボクシングとか格闘技系はよく分かりませんが、文房具は私も好きなので話が弾んでとても楽しかったです。



ホストファミリーとの写真



アッピンゲダム街

私が滞在していた間にお母さんとおばあさんの誕生日があり、みんなでパーティーをしてプレゼントを渡したりしました。ペットのピングゴとムースとも仲良くなり、犬のビングゴとは毎朝起きてすぐ庭に出てボール遊びをしていました。猫のムースは私の足元と一緒に寝てくれてとても人懐っこい子でした。ホストファミリーのみんなと仲良くなれてとても嬉しかったです。ホストファミリーデーで色々な場所に連れて行ってくれて特に印象に残っているのはドイツとオランダの国境に連れて行ってくれたことです。自分の足で国境を越えるのは生まれて初めてだったので嬉しかったです。

私はこの訪問団に参加して英語と歴史の勉強により興味を持つことが出来ました。英語は今回の訪問で翻訳機に頼ってしまうことが多く、もっと自分で相手とコミュニケーションを取りたいと思ったからです。自分が感じたことを自分の英語で伝えられるようになりたいと感じました。歴史は初日の美術館で感じたことなのですが、中世ヨーロッパの絵を見たりして、その絵が描かれた歴史的背景を知ることが出来たら絵の見方や感じ方が変わり、ただ見るだけではなくその絵を描くまでのストーリーを知ることができ、より魅力を感じられて楽しいだろうなと思ったからです。この訪問団に参加して異文化に触れ新鮮で楽しいことと反対に学ぶことがあり、それを知ることが私にとっていい経験になりました。これからの学校生活で勉強により興味とやる気を持って取り組んでいきたいです。そして将来、英語をもっと話せるようになってまたオランダに行けるといいなと思います。



ホストファミリーのペットで猫のムース



サイクリング



ドイツとオランダの国境

大迫 啓志

Osako Hiroshi

(ホストファミリー Boersma 家)

出発当日、徳山駅に集まった団員たち一人ひとりに声をかけると、返事こそしてくれるもののどこかよそよそしい様子。事前の研修で何度か顔を合わせている団員同士でも盛り上がることもなく、静かな旅のスタートです。これまでの訪問の中で最も平均年齢の低い団員、そしてこのおとなしさ。「この子たちはちゃんと交流できるのだろうか」という不安を抱えての出発でしたが、それは杞憂に終わりました。

ホストファミリーの皆さんは、団員たちを家族の一員として温かく迎え入れてくれ、言葉がうまく通じない団員たちに対しても、親切かつ丁寧に接してくださいました。団員たちもそれにこたえようと精一杯頑張ってくれたおかげで、一層交流を深めることができ、生涯心に残るような思い出を作ることができたことでしょう。

姉妹都市財団を中心として組み立てられた趣向を凝らした交流プログラムは、ホストファミリーや現地の方々と少しずつ打ち解けられるよう配慮されていて、長年の実績があるからこそできたものでした。長い歴史における青少年の派遣・受入の中で、毎回進化し続ける交流事業は決して途絶えさせてはならないと強く感じました。私たちを温かく受け入れてくださったエームステルタの方々には大変感謝しています。

また、はじめはよそよそしかった訪問団員同士も日を追うごとに仲良くなり、一致団結、協力しながら活動してくれました。壮行会では一人ひとりが力強く決意表明している姿を見ていましたが、言葉も文化も異なる環境の中で、孤独や不安を乗り越えるためには、共通の目標や価値観を持ち、支え合うことができる仲間とのつながりが重要です。冒頭でも述べた通り、出発の時点ではほとんど盛り上がることもなく、不安を抱えながらの訪問で



ホストファミリーのニックと。
昨年周南市で出会い、1年ぶりの再会でした。



自転車保有率世界一のオランダ。あらゆるところに
専用道が整備されており、自転車移動が便利です。



ニックは交友関係が広く、毎日のように
たくさんの友人を紹介してくれました。

したが、次第に信頼関係を築いていき、子どもたちだけで考え、動いて、問題を解決していく姿を見られたときにほっと一安心したのを覚えています。人とのつながりは大きな財産になります。団員たちには今回知り合ったエームスデルタの方々との交流を末永く続けてほしいと思うのと同時に、訪問団員同士の絆も忘れず、これからの人生を切り拓いていってほしいと思います。

言葉の面においては、英語でコミュニケーションを取るのに苦労している子もいましたが、だからと言ってふさぎ込むわけでもなく、翻訳機の使用や周りの協力を得ながらも何とか交流しようとする姿に感心しました。また、帰国の際には「もっと英語を学んで、またオランダに行きたい」という子も多く、現地に赴き、直接交流することの尊さを実感したようでした。

私自身も、現地ではホームステイをすることで、オランダの生活を垣間見て、心の温かさを感じたり、日本での生活との違いに戸惑ったりしながら、有意義な時間を過ごしました。また、エームスデルタの皆さんから温かい歓迎を受け、改めてこの姉妹都市交流の素晴らしさを実感しました。

この10日間は団員たちにとって本当に刺激的で、かけがえのない経験になったことでしょう。今回の訪問を経て、団員たちがどう成長し、どのような大人になっていくのか楽しみです。

また、団員のみんなとともに過ごした10日間は、私にとっても大変印象深いものとなりました。はじめは不安ばかりだった団員たちが、短い期間でぐんぐん成長する姿を目のあたりにし、一緒に過ごせる幸せを感じたひとときでした。

友好親善訪問には、限られた人数しか参加できないため、それぞれが現地で体験したことや学んだことを、周囲の人々に伝え、地域社会へ還元していくことが重要です。私自身もエームスデルタ市を訪問した一人として、この輪を広げるべく、今後もさまざまな形で国際交流に取り組んでいきたいです。

最後になりましたが、このような貴重な経験の機会を与えてくださったすべての皆さまに、心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



旧デルフザイル市内にある「アダム」という名の風車。
伝統的な風車は国内に約 1,000 基残されているそう。



近代的な風力発電用の風車もたくさん。

エームスデルタ市訪問までの事前説明会や帰国後の報告会のようすを紹介します。

事前説明会・研修会（6月3日、6月22日、7月6日）



出発までの間に3回実施した事前説明会・研修会では、訪問の行程、準備物等の説明や現地で開かれるお別れ会での出し物、グループ学習のテーマを決め、準備を進めていきました。

グループ学習では3グループに分かれ、それぞれ「家のつくり」「教育」「動物」というテーマで、日本とオランダの違いを調べることになり、事前に日本のことを調べたり、オランダのことについて予想したりしました。

また、ホームステイの心構えの説明や英会話学習、簡単なオランダ語講座なども行いました。

壮行会・最終説明会（7月21日）



壮行会では、市長や団員の在籍する学校の先生方、保護者のみなさんの前で、1人ずつ決意表明をしました。ここまで本当におとなしかった団員たちには「大丈夫だろうか」という不安のほうが大きかったのですが、一人ひとりの決意表明ではしっかりと目標を掲げ、意気込みを述べている姿を見て、少し安心しました。

事後研修会（8月19日）



帰国後に開催した事後研修会では、グループ学習のテーマについて、現地で調べたことをまとめました。約2週間ぶりの再会で、話が尽きません。あれだけ静かだった事前研修会が信じられないほど賑やかな事後研修会になりましたが、やる時はしっかりやる団員たち。それぞれの調査項目についてはホストファミリーに質問したり、写真を撮ってきたりとしっかり調査してきたようで、限られた時間の中でもまとめを作成できました。

帰国報告会（9月14日）



帰国報告会では、まずグループごとに写真を使いながらグループ学習の成果を発表しました。その後、1人ずつ現地での活動報告を行いました。壮行会のときと比べて、堂々と自信に満ちた様子で、皆さん素晴らしい発表をしていました。

グループA「家のつくり」 ・家の材料 ・キッチン ・部屋の役割

グループA テーマ: 家のつくり
家の材料について 森井 初咲

主な材料

外壁: シンガピメント (稀に木) 9割以上
室内: 木
キッチン: シンガピメント
キッチン: シンガピメント
キッチン: シンガピメント

レンガ造りの利点
1. 長年使っても劣化しない
2. 耐火性が高い

オランダに造らせた家
ホストファミリー宅

まよぬ
耐震や防災の観点からレンガ造りになっていくのがわかる。

グループA テーマ: 家のつくり
キッチンについて 清水 愛美

家の中にキッチンが入らなくて川の方へはねてしまう形になった昔ながらのキッチン

オランダの伝統的なキッチン

一般的な台所 → キッチンが倉庫とつながっていることが多い。

倉庫

まとめ
日本とサイズは違いますが便利につくりは同じだった。

グループA テーマ: 家のつくり
部屋の役割 福木 詩子

リビング
食卓にみんなでくつろぎます。テレビを見たり、ピアノをひいたりします。

自分の部屋
自分の好きなベッドのサイズやカーテンを選ぶそうです。部屋は休んだりプライベートのことに使うそうです。

シャワー・ルーム
浴槽がある家と無い家があるけどほとんどは無い。トイレ・シャワーがいくつかの部屋にある。

グループB「教育」 ・習い事 ・学校行事 ・科目 ・学校生活

グループB テーマ: 教育
習い事について 志水 里帆

日本では水泳や英会話、ピアノや整骨が習い事として人気! オランダで人気の習い事は何だろう?

自転車 競技用の自転車も利用!

ダンス ヒップホップが人気!

カヌー・水泳 同時に行う!

乗馬 自らの馬を所有する人も!

柔道 道場が身近にある!

自転車やカヌー、乗馬など、オランダで人気の習い事がある一方で、柔道などの意外な習い事もあった!!

グループB テーマ: 教育
学校行事について 内山 香子

入学式・卒業式
入学式と卒業式はなく、入学するタイミングは入それぞれです。4歳の誕生日の翌日から順次入学するという制度になっています。義務教育は5~18歳まで。授業料はほとんど無料です。(公立と私立) しかも小学校生活で必要なものはたいてい5つ。カバン、水筒、体育館シューズ、お菓子の入れ物、お弁当箱です。鉛筆やノートは必要ないです。とても驚きました。

修学旅行
修学旅行ではドイツに行くそうです。日本ではなかなかないです。バスや電車もいらさず、簡単に旅行に行くことに驚きました。オランダに行くことは少ないそうです。(修学旅行で)

グループB テーマ: 教育
科目について 柳生 史花

習う科目
数学、オランダ語、生物学、英語、地理学、化学、ドイツ語、体育、物理学、ICT、音楽、技術、芸術、宗教

↑生物学 ↑教育 ↑数学

↑技術

宗教では色んな宗教について学ばないが理解する。

まよぬ
日本と同じような科目はICT、ドイツ語、物理学、宗教、生物学、芸術などの日本にはない科目もある。

人気が高い科目
体育と英語

Bグループ テーマ: 教育
学校生活について 福田 優月

給食
オランダでは給食は各自で持ってきて食べるそうです。時間は通常で10時と12時の休憩時にそれから昼食を食べるそうです。

制服
制服はなく自分の好きな服を着て登校する。

まとめ
オランダの休日は日本と違って給食と制服は日本と違った。



発行 周南市 文化スポーツ観光部 観光振興課

〒745-8655

山口県周南市岐山通1-1

TEL(0834)22-8372

FAX(0834)22-8428

周南市
SHUNAN CITY